



運搬



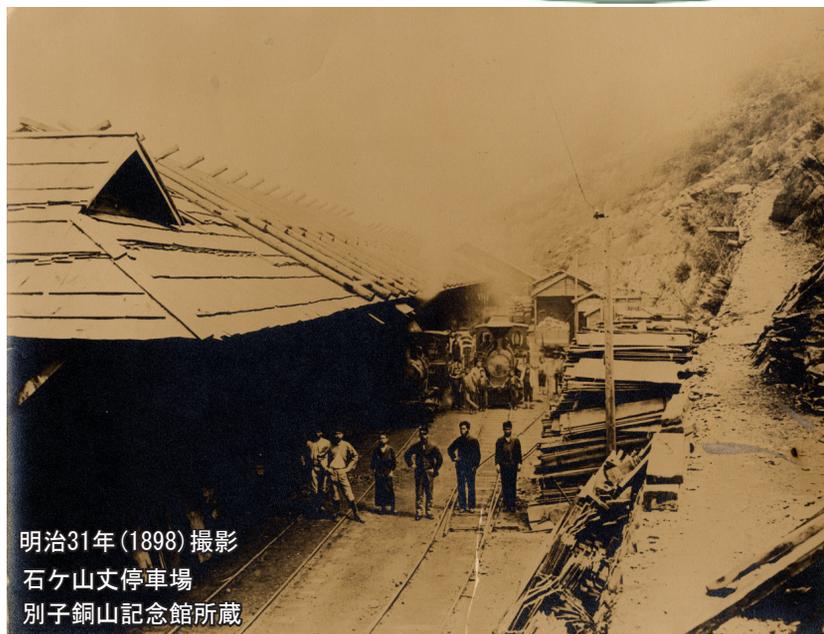
広瀬 幸平

27
まいん

いしがさんじょう

石ヶ山丈

鉄道から索道へ
物資運搬の重要基地



明治31年(1898)撮影
石ヶ山丈停車場
別子銅山記念館所蔵

いしがさんじょうは石ヶ山丈^上部鉄道の起点、鉱石運搬の索道基地(空中にロープを張って物資や鉱石を運ぶ)として重要な役割を持った場所でした。

明治19年(1866)に完成した第一通洞とともに鉱山鉄道及び石ヶ山丈の索道は別子の輸送体系に画期的な改善をもたらしました。別子山地区の弟地や

別子本舗、東延から粗銅が第一通洞を通過して牛車により角石原まで搬出され、上部鉄道を通して石ヶ山丈まで運ばれました。石ヶ山丈からは端出場(海拔約156メートル)まで、延長1,585メートルの高架索道で運ばれました。

ところで、上部鉄道の蒸気機関車は当初日本人の運転手がいなかったため、ルイ・ガランドというドイツ人機関手を雇って運転させていました。



索道基地跡



現在の石ヶ山丈停車場跡

その後、採掘場の下部移行や明治35年(1902)に第三通洞の貫通、明治38年に東平〜黒石間複式索道が完成したことで、輸送量が激減しました。

さらに、明治44年10月以降は上部地帯で採掘された鉱石はすべて東延斜坑、第三通洞経由で運搬することになったため、同年10月7日、上部鉄道は廃止されました。

現在も上部鉄道敷跡は残り、石ヶ山丈から角石原までの登山道として利用されています。

また、石ヶ山丈停車場跡には、プラットホームの一部(レンガで敷き詰められた下地など)が残されています。



明治31年(1898)撮影
石ヶ山丈索道基地と倉庫
別子銅山記念館所蔵

